

## 2010\_07\_01 看護情報学ディスカッション記録

先生：町長の辞令に関して

中村さん：町長のビジョン、目標が明確

地域医療の大学との連携について

先生：医療資源が少ないところをどう支えるかという意味

大西さん：昨年厚労省で、県が無医村にどのように医師を配置するか計画たてると予算がつくようになった

中村さん：限界集落の中では内子町は程度がマシな方だが、  
交通機関がないと病院へのアクセスは難しい

大西さん、先生：人口減っているのに世帯数変化なし

中村さん：若い住民が交代で高齢者の医療アクセスを助ける

大西さん：洗剤などの買い物は？

中村さん：石鹸は自分で作成。家族の人と連絡はとっている。

疾患などで自分の世話を自分でできなくなったら・・・QOLが低下

先生：現在は単身世帯が増えて地域の介護力が低下

中村さん：現在は都市部へ流出している

先生：距離を超えるためには通信技術を使う必要がある。

継続的にコミュニケーションがとれるネットワークをはっておく。

通報システムも1つの方法。見守られているという安心感がある。

中村さん：人と関わる機会の大切さ。それが健康につながる。

健康情報を得るためにも人との関わりが大事。

先生：保健医療福祉が（1つの場所にかたまっていて）連携がとれていること、

保健師が地域を把握できるようにどのように育てていくか

中村さん：保健師の育成についてあまり見えなかった

先生：業務日誌をある程度公開することにより、情報共有できる。

地域 SNS の使用。住民参加を促すヘルスプロモーションと同じ。

ヘルスリテラシーは全員のレベルをあげなくても HL の高い人につながっていることが大事。